

個としての強さを有し、チームで働く

真のプロフェッショナルとは、個としての強さを有することはもちろん、チームで働くことの意味を自らの視点で見いだせる人材です。

コンサルティングファーム出身



クライアントに寄り添い、
真の変革にコミットする

シニアマネジャー

コンサルティングファーム出身／成長実感／多様な専門家との協働／クロスボーダー



クライアントに真摯に向き
合い、自分自身も成長し
続けられる環境があります

シニアマネジャー

コンサルティングファーム出身／働く環境・魅力／女性活躍／グローバル連携



不確実な未来に備える
のではなく、クライアントと
共に未来を創り出したい

ディレクター

コンサルティングファーム出身／社風／グローバル連携／働く環境・魅力



クロスオファリングの専門
性を挺子に、本質的な課
題に向き合うやりがい

マネジャー

医療・ヘルスケアコンサルティングファーム出身／ヘルスケア／女性活躍／社風



やりたいことにチャレンジ
できる環境があります！

マネジャー

総合系コンサルファーム出身／成長実感／女性活躍／働く環境・魅力



真のカスタマーセントリック
を実現する

ディレクター

ITコンサルティングファーム出身／成長実感／働く環境・魅力



グローバルで活躍する日
本企業に向けたチェンジ
マネジメント支援を実施

パートナー

IT系コンサルファーム出身／女性活躍／働く環境・魅力



グローバル日系自動車産
業をデロイトネットワークで
支える

ディレクター

総合系コンサルティングファーム出身／グローバル連携／社風



想像以上に真面目、想像以上に自由

パートナー

外資系コンサルティング会社出身／グループ内連携／多様な専門家との協働／社風



Consulting is a service. Strive to serve for the client's best experience.

ディレクター

IT系コンサルファーム出身／グループ内連携／多様な専門家との協働

異業種出身



クライアントやメンバーとともに、困難を乗り越え成長する実感

マネジャー

ITソリューション企業出身／成長実感／多様な働き方／チャレンジできる環境



多種多様なバックグラウンドを持った仲間と、やりたいことにチャレンジ

シニアマネジャー

多様性／女性活躍／グローバル連携



異業種出身者ならではの価値は多彩。是非チャレンジを。

シニアマネジャー

グローバル連携／チャレンジできる環境／成長実感



バックグラウンドを活かした"その人ならではの"価値提供

シニアコンサルタント

女性活躍／チャレンジできる環境／成長実感



「私らしく」いられるDTCで、価値創出と自己成長を実現

マネジャー

女性活躍／チャレンジできる環境／成長実感



自分色のコンサルタントになろう！

コンサルタント

製薬会社出身／チャレンジできる環境／女性活躍



企業の変革をサポートするため、成長し続ける

シニアコンサルタント

新卒入社／成長実感／社風



日々、自分が社会に与えるインパクトを実感

マネジャー

新卒入社／チャレンジできる環境／成長実感



想い溢れる同志と、切磋琢磨し道を切り開いていきたいならば、、、

マネジャー

国内Sier出身／グローバル連携／社風



もしあのとき手を挙げていなければ

シニアコンサルタント

人事系ベンチャー企業出身／異業種からの転職／人材育成／ワーキングプログラム



パブリックセクターの原体験をプロジェクトに生かしたい

シニアコンサルタント

公務員出身／異業種からの転職／ワークライフバランス／社風



異業種からの転職を障壁と捉えず、成長・自己実現の機会を掴んでほしい

マネジャー

総合電機メーカー出身／異業種からの転職／社風



キャリアを変える/新天地に飛び込む勇氣

シニアマネジャー

異業種からの転職／働く環境・魅力



実現したい未来を、共に目指すことができる仲間や環境がある。

マネジャー

営業職経験／情報システム部門出身／女性活躍／ワーキングプログラム／社風

クライアントに寄り添い、真の変革にコミットする

デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社
Region シニアマネジャー
コンサルティングファーム出身
成長実感／多様な専門家との協働／クロスボーダー

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.DTCへ移って来られるまでの経緯を教えてください

A.大学卒業後、CRM系コンサルティングファームに入社しました。小さなファームだったため、若手の頃からフロントに立つ機会が多く、脳みそに汗をかく毎日でした。そのおかげもあり、コンサルタントの基本動作（クライアントの言葉の裏にある背景を理解し、示唆を出し、具体的なアクションにつなげる）が身についたと思います。

その後、日系コンサルティングファームに転職し、製造業・金融業を中心にDXや業務改革、PMI（Post Merger Integration）などの案件に従事しました。マネジメント層と会話する機会が増える中、何をどう実現するか（What・How）だけではなく、Why（なぜすべきか）の意思決定にも関与していきたいという思いが強くなっていました。

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？

A.DTC入社後は、想像以上に幅が広がったと感じています。

業界軸のインダストリー領域・サービス軸のオフリング領域双方のチームを有するRegion（西日本）組織に所属し、双方のチームでの経験を通じて、今では幅広い引き出しを持ちながら、クライアントとの日々の議論に臨めるようになったと感じています。

また、クライアントの課題・ニーズに合わせ、Region内のインダストリー・オフリングチームや東京側の組織とコラボしながら、面的なサービス展開が可能な点も、DTCの魅力だと感じています。実際、クライアントからも「抽象的なテーマや困ったことがあった際、DTCに頼むと必ず何かが返ってくる」というコメントをいただく機会が多いです。

Q.（他ファームと比較して）DTCの良さを教えてください

A.今後、生成AIをはじめとしたテクノロジーの進展で、情報の非対称性による価値提供だけではコンサルタントの価値は薄らいでいくと感じています。その中で、Go-to-Marketを常に意識しながらクライアントの声・関心事を丁寧に汲み取り、将来を見据えたアジェンダ設定・示唆出しにとどまらず、変革までコミットする、という共通言語が社内の多くのメンバーにある点は、DTCの強みだと感じています。また、Regionという西日本に根差したコンサルタントメンバーが多く、様々なRegion発に携われるチャンスがあることも大きな魅力だと感じています。



Q.（これを見ている他社の）ファーム在籍者・出身者へのメッセージをお願いします

A.私が所属するRegion Divisionは、インダストリー・オファリングそれぞれの専門性を持ったメンバーが在籍し、組織の壁なくクライアントへの価値提供を目指しています。特に西日本エリアには、日本の産業を牽引してきた製造業が多く、今後さらにグローバルに目を向けた取り組みが増えていくと思います。その中で、ビジネスモデル変革やデジタル化、人的資本最大化、ESG対応など多岐にわたるテーマへの取り組みが必須となり、皆様のご知見・ご経験が最大限活きる刺激的な環境だと感じています。是非一緒に働けることを楽しみにしております。

▼ご興味ある方はぜひ！

< 応募職種一覧ページ >

[Region Division 西日本エリア（関西・福岡オフィス）コンサルティングサービス領域](#)

[一覧へ戻る](#)

[採用ページへ戻る](#)

クライアントに真摯に向き合い、自分自身も成長し続けられる環境があります

デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社

Technology Media & Telecommunications (テクノロジー／メディア／通信領域)

シニアマネジャー

コンサルティングファーム出身

働く環境・魅力／女性活躍／グローバル連携

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.DTCへ移って来られるまでの経緯を教えてください

A.メディア・エンターテインメント(以下M&E) 企業の変革・成長を支援するコンサルタントになりたいという思いを持ち、新卒で外資系総合コンサルティングファームに入社しました。Technology, Media & Telecommunications Division (以下TMT) というインダストリーの部署に数年間所属し、複数のプロジェクト経験を積みコンサルタントの基礎スキルを修得しました。マネジャーを見据えて今後のキャリアを具体的に考え始めたタイミングで、それまでの経験の延長線ではなく、よりM&Eのクライアントにフォーカスしつつ様々な種類の案件に携われる環境でインダストリーコンサルタントとしてのスキルアップを図りたいという考えに至り、DTCのTMTへ転職を決めました。

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？

A.期待以上に幅広い種類のプロジェクトを経験することができ、スキルの幅が広がり、多角的な観点からクライアントの課題を捉え最適なアプローチを検討する力を養うことが出来ました。前職では案件内容がやや偏り気味でしたが、DTC入社後のTMTでは事業戦略、デジタル、人事、テクノロジー等様々なテーマに携わることが出来ています。TMTには業界動向に対する高い感度、担当クライアントへの強い思い、多様なバックグラウンドを持った個性的なメンバーが所属しており、組織内でのナレッジシェアも活発に行われているので、先端知見やトレンドを常にキャッチアップできる環境です。またプロジェクトでは専門家とのコラボレーション機会が非常に多く、業界知見のみでなく周辺の領域知見も強化することが出来ます。そのような環境で、インダストリーコンサルタントとしての提供価値や、自分ならではの目指したいコンサルタント像を具体的にイメージできるようになりました。

Q.DTCの職場環境やカルチャーについて教えてください

A.やはり各分野のプロフェッショナルが揃っており、どの分野でも高いレベルのサービス提供やダイナミックな変革のサポートが可能なこと、またそのためにグループ内・部門間のコラボレーションを重視していることは大きな魅力だと思います。日々の業務においても、どのようなテーマに対しても社内での有識者に協力を仰ぎタイムリーに議論を深められる環境です。また、個の強みを尊重しながらチームとしてのパフォーマンス最大化を図るカルチャーはとても良い所だと感じます。私の所属するTMTでも、一人一人が生き生きと働ける環境作りと、それを組織力強化に繋げるための各種施策を多くのメンバーが主体的に推進しています。



Q.コンサルティングファーム在籍者・出身者へのメッセージをお願いします

A.クライアントへの提供価値・品質にこだわりたい方、年次に関係なく自分自身の成長をもう一段加速させたい・キャリアの可能性を広げたいと考えておられる方は、変化を恐れず、コンサルタントとしてのステップアップの環境にDTCを選んでいただけたらと思います。また先端のテクノロジーを活用しながらTMT業界の変革に貢献したいという思いのある方は、TMTでやりがいのある仕事ができるのではないかと思います。

▼ご興味ある方はぜひ！

<応募職種一覧ページ>

[Technology, Media & Telecommunications（テクノロジー/メディア/通信領域）](#)

不確実な未来に備えるのではなく、 クライアントと共に未来を創り出したい

デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社
Automotive ディレクター
コンサルティングファーム出身
社風／グローバル連携／働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.DTCへ移って来られるまでの経緯を教えてください

A.大学卒業後、コンサルティング業界に入り、最初の7年間は自動車OEM・サプライヤーのSAPシステム導入とグローバルロールアウトに従事し、主に倉庫の生産・需要予測モジュールの要件定義、システムアーキテクチャを担当しました。

SAPプロジェクトでは、システム導入からプロジェクトマネージャーへと役割が増すにつれ、お客様の対話相手も現場担当レベルからCXOレベルへと上がっていきました。その過程で強く感じたのは、企業にとってシステムを取り込むだけでは変革はできないということでした。そこで、より高い視点（IT中長期戦略、DX戦略、GX戦略）から、クライアントの変革を実現し、激変する市場変化への対応を支援したく、コンサルティング業界に入って8年目に経営コンサルタントへと転身しました。

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？（前職では得られない魅力・充実感、スキルアップ等）

A.DTCは、企業戦略、DX戦略からプロジェクト管理、システム導入まで、End to Endの全領域をカバーし、且つグローバルネットワークによる横連携もあり、不確実な環境下でのクライアントへ変革の支援をすることが可能です。

私自身は、入社後は自動車OEM1社のアカウンتریダーの役割として、1エリア、1プロジェクトにとどまらず、アカウント全体に焦点を当ててきました。中長期的な全社戦略から、各事業部の戦略、各主要マーケティング戦略やDX、GX戦略の実行まで支援でき、より深く自動車OEMのことを理解することができました。DTC社内の横断連携、グローバルサポートの深さと広さに感銘を受けており、1プロジェクトや1部門だけではなく、DTC全体がクライアントに価値を提供するために全力を尽くしていると感じております。

Q.（他ファームと比較して）DTCの良さを教えてください

A.少なくとも私の経験では、DTCほどプロジェクト管理や品質管理にパートナーが深く関与しているファームはありません。また、社員のキャリアに対するサポートや尊重は、これまで経験したことのないものでした。新しい分野（例：GX、モビリティサービス等）の開拓等も他社にはない先駆者的な力があると思います。



Q.（これを見ている他社の）ファーム在籍者・出身者へのメッセージをお願いします

A.「Client Thinking」、「Innovations for the Future」、「Challenge of Uncertainty」のチームと働くことができる！
「Thinking of you」、「Helping you grow」の仲間がいる！

▼ご興味ある方はぜひ！

< 応募職種一覧ページ >

[Automotive（自動車領域）](#)

[Automotive（関西・東海エリア採用 / 自動車・製造業領域）](#)

[一覧へ戻る](#)

[採用ページへ戻る](#)

クロスオファリングの専門性を梃子に、本質的な課題に向き合うやりがい

デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社
Life Sciences and Health Care マネジャー
医療・ヘルスケアコンサルティングファーム出身
ヘルスケア／女性活躍／社風

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.DTCへ移って来られるまでの経緯を教えてください

A. 大学院卒業後、事業会社にて数年従事した後、大学・大学院時代に専攻していた薬学、ヘルスケアの領域に携わりたいと思い、ヘルスケア専門の外資系コンサルティングファームに転職しました。そこでは、主に開発後期品の上市後の事業性予測やマーケティング戦略立案に多数携っていました。患者さんの治療生活を変えうる画期的な医薬品に対する検討だったので、非常に大きなやりがいを感じました。一方で、時代の変化から、従来型の医薬品の上市手法からの変革が求められるようになり、開発後期～販売以外のバリューチェーンや、デジタル活用にも関わり、継続的に価値を発揮したいという気持ちが強くなり、ヘルスケア業界に最大の規模を有し、幅広くヘルスケア案件を実施しているデロイトに入社しました。

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？

A. デロイト入社し、より「真にクライアントが求めていることは何か？」を考え、行動するようになりました。マネジャー昇格後、アカウント担当として、あるクライアントの経営課題に伴走しています。経営課題なので難易度が高く、広範にわたりますが、自分が解決しやすいところに我田引水する必要がありません。それは、デロイトはヘルスケア部門を超えて幅広い分野のスペシャリストが近くにおり、なんでも解決の糸口を見つけ出せるからこそです。逆にいえば、クライアントが本当に困っていること・解決すべきことは何か？を考えさせられる機会になっています。結果的に、以前は、自分が多少頑張れば価値を発揮できるところへの時間投下で物事を解決しようとしがちでしたが、それ以外の価値発揮の仕方を覚えたように思います。

Q.DTCの良さを教えてください

A. 入社前は、デロイトはドライなのかなと不安でしたが、むしろ逆でした。「自己責任で頑張ってこい」というよりは、「思うように挑戦してよい、もし何かあったら全部なんとかするから！」と後押しを貰えます。挑戦した後は、Bi-weeklyでの公式的なフィードバックだけではなく、パートナーやシニアマネジャーから直後に直々に電話が掛かってきて、「あれ、よかったよ！」だったり、次の挑戦に向けたアクションブルなアドバイスなどを貰えたりと、仲間の成長を応援し、互いをリスペクトする風土だと感じます。

Q.ファーム在籍者・出身者へのメッセージをお願いします

A. 時代の変化のスピードが速くなり、唯一絶対解がない一方、より早く解を出していくことが求められる中で、部門を超えて幅広い分野のスペシャリストが近くにおり、互いにリスペクトする風土は、非常にありがたいと感じます。また、ヘルスケア業界に特化しても、最大の規模を有するからこそ多様な役割の担い方が存在し、どのようなキャリアを歩んでいくか柔軟に変えていきたい方にも、安心して働ける環境であり、一緒に働けることを楽しみにしています。



▼ご興味ある方はぜひ！

<応募職種一覧ページ>

[Life Sciences & Health Care（製薬、医療機器、医療・異業種参入領域）](#)

やりたいことにチャレンジできる環境があります！

デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社
Customer & Marketing マネジャー
総合系コンサルファーム出身
成長実感／女性活躍／働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.DTCへ移って来られたきっかけを教えてください

A. 新卒で入社した総合系のファームでは、業務基幹システムの刷新プロジェクトに主に従事しておりました。

お客様と伴走しながら業務改革を進めていく面白さは感じつつも、要件定義フェーズから入ることが多かったため、業務改革の大方針やシステム選定といった上流フェーズでの意思決定に疑問を感じることもあり、お客様の抱える課題を戦略面も含めもっとEnd to Endで支援できるコンサルタントになりたいと思うようになりました。

そんな中で前職からデロイト トーマツ コンサルティング（以下、DTC）に転職した先輩から、DTCでなら上流フェーズ含めての支援ができる旨を伺ったこと、DTCで働いている知り合いが皆、生き活きしていたことがきっかけとなり入社を決意しました。

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？

A. 想像以上に世界が広がり、仕事を楽しいと思える瞬間が増えました。

転職時に希望していた通り、経営計画の策定や新規業務の立ち上げ支援といった上流フェーズも経験でき、はじめは苦勞もしたのですが、Why・Whatを考える力や習慣が前職以上に身についたことで、成長を実感しています。根気強く指導してくださった上位者の方々にはとても感謝しています。

また、プロボノ活動やユニットでのソリューション開発活動といったプロジェクトワーク以外の成長の機会も希望すれば手に入る環境であるため、プロジェクトをしっかりとデリバリーしながらもそうした活動に楽しく取り組めることも魅力ですね。

Q.DTCの良さを教えてください

A. やりたいことにチャレンジできるところが良いです。所属部門のパートナー・上位者との距離が近いことがその一因かと感じています。私の部署では、パートナー・上位者との面談が定期的に設定されており、キャリアの方向性や興味を伝えることができます。前述したプロボノ活動やユニットのソリューション開発活動にも手をあげればチャレンジできるため、パートナー・上位者との距離の近さは自らの可能性を広げるためにとても助かっています。

Q.ファーム在籍者・出身者へのメッセージをお願いします

A. 同業間でできる仕事に違いがあるのか？と疑問を抱く方もいらっしゃるかもしれませんが、私はDTCに入社したことで、様々なことにチャレンジする機会に恵まれました。DTCにはメンバーのやりたいことを聞き、サポートしてくれるカルチャーがあると感じています。DTCで、前職で培ったスキルをさらにブラッシュアップさせながら、一緒にワクワク働きませんか。



[一覧へ戻る](#)

[採用ページへ戻る](#)

真のカスタマーセントリックを実現する

デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社
Emerging Solutions & Incubations ディレクター
ITコンサルティングファーム出身
成長実感／働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.DTCへ移って来られたきっかけを教えてください

A. 新卒で入社したERPの導入を主力としたITコンサルティングファームで、ERP導入プロジェクトに従事しておりました。周囲の環境にも恵まれておりましたが、クライアントのビジネスの成功を支援するというコンサルタントの存在意義と照らしあわせたときに、変革の手段であるIT導入のみに縛られず、クライアントから相談された際により幅広い引き出しをもったコンサルタントを目指したいと思い転職を考えました。そんな折、当時“Executable Strategy”を標榜していたデロイト トーマツ コンサルティング（以下、DTC）への転職のお話をいただき、ここならば本質的なクライアントの課題解決に貢献できる力が身につくのでは？と考え転職を決意しました。

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？

A. 転職前に目指していたコンサルタントの姿に近づき、幅広い引き出しを持ってクライアントに提供できるまでに成長したと感じています。業界問わず戦略～IT導入まで幅広いプロジェクトに従事する機会を与えられ、そこで沢山の経験を積むことができましたし、DTCだけでなく海外メンバーファームや監査法人・税理士法人などの専門性の高い人材がと協力することで、自分だけでは出せない価値を組織としてクライアントに提供することができています。こうしたポジティブなループを生み出す環境があることが、DTCの魅力であると考えています。

Q.DTCの良さを教えてください

A. 自由な組織風土があることです。昨今、テクノロジーが著しく進化している影響で、クライアントサービスにより高度な専門性を求められており、サービスの分業化が大きく進んでいます。多くの場合、サイロ化が進みプロダクトアウトな発想に陥りがちですが、DTCではマーケットインの視点でコンサルタント自身が自由にプログラムを企画し実行することを推奨してくれます。その結果、一人一人の裁量の幅が大きく、クライアントへの価値提供の幅と質を向上させていると感じます。

Q.ファーム在籍者・出身者へのメッセージをお願いします

A. 企業変革を支援する中で企業は常に変化するものだとは常々感じています。そんな日々変化するクライアントへ価値提供するためには、DTCは社内外問わず様々な専門性を持った人材とコラボレーションすることで、常に最新の価値をクライアントに提供することを目指しています。時として文化や背景が異なるため、成長痛を起こすこともありますが、変化に挑戦することができる環境は整っていると思います。そんな変化に富む環境を活かして、真のクライアントセントリックの実現を目指しませんか？



[一覧へ戻る](#)

[採用ページへ戻る](#)

グローバルで活躍する日本企業に向けた チェンジマネジメント支援を実施

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
Human Capital パートナー
IT系コンサルファーム出身
女性活躍／働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.DTCへ移って来られるまでの経緯を教えてください

A. 2002年に日本の大学を卒業後、他社コンサルファームでITの革新を伴うグローバルプロジェクトに日本、中国、欧州、北米で5年間従事しました。前職を通じて、日本企業が海外拠点を巻き込んだ業務改革を遂行する難しさを知り、ヒト・組織に向けた施策の展開がグローバルビジネスの成功要因としては不可欠であると考えようになりました。

グローバル環境における日本企業の躍進を実効的に支援するためには、それに耐えうる人材の育成・登要を組織的に実現する仕組み作りの必要性を覚え、2007年から米国の大学院で組織学習・リーダーシップ開発に関する修士課程を経て、2009年にDTCに入社しました。

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？

A. DTCのコンサルタントとして、自分の専門性を活かし、チームでクライアントサービスに寄与できる喜びを覚えるようになりました。クライアントが抱える多様な課題を解決するために必要な施策は何か、目的を達成するために有効な施策をどう展開するか。私は、ヒト・組織の観点から提案することができます。しかし、クライアントが抱えるビジネス課題は非常に複雑であり、複数の視点から施策を講じることが求められます。

DTCでは、他ユニットのメンバーとチームを組むことで、それぞれの知見を組み合わせた総合的なソリューションをクライアントに提供できる。そんなプロフェッショナルチームの一員として寄与できる実感を味わえることは最高に楽しいです。1つ1つのプロジェクトが、ただの「仕事」ではなく「新しい学習と感動」を覚える場が変わったと感じています。

Q.ファーム在籍者・出身者へのメッセージをお願いします

A. DTCに入社してから4年間、毎日がとても充実しています。ヒト・組織の側面から改革支援を、という漠然とした思いからチェンジマネジメントプロジェクトを始め、今年はユニットの1サービスラインとして事業展開できる規模に成長させることができました。

私はクライアントと同じ目線で課題に向き合いたいので、クライアント先にできるだけ常駐させていただくスタイルを貫いています。その分、自社で過ごす時間は、極わずか。それでも、このキャリアを築けた理由は、本当に素晴らしい上司や先輩方に恵まれたからだと確信しています。

様々な機会を提供し、自由に挑戦することを許し、困ったときは支えてくれる。また、どんなにクライアントに怒られても、めげずに一緒に考え、励ましてくれる後輩達なしには、今の自分はありません。DTCのチームメンバーに、心から感謝しています。



[一覧へ戻る](#)

[採用ページへ戻る](#)

グローバル日系自動車産業をデロイトネットワークで支える

デロイト トーマツ コンサルティング合同会社
Auto ディレクター
総合系コンサルティングファーム出身
グローバル連携／社風

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.DTCへ移って来られるまでの経緯を教えてください

A. 幼少のころから国内で過ごし2011年に日本の大学を卒業しました。それまでは海外との接点もあまりなかったのですが、1社目の総合系コンサルティングファームでは主にグローバル企業の基幹システム刷新の案件に携わり、入社1年目から東南アジア、ヨーロッパ、アメリカ現地でデリバリーを行い、様々なバックグラウンドを持つ現地メンバーとOne Teamで仕事をする楽しさを味わいました。

その中で

- ①システム導入に至るまでの経営判断・経営戦略領域にも携わりたい
 - ②上流～下流までの一気通貫したサービスをグローバル同じ品質でデリバリー出来るチームを作りたい
- と感じるようになり、各ファームの特性を知っていく中でDTCが最適解という結論になりました。

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？

A. 前職ではより業務プロセス改革・基幹システム導入関連の案件が多く、PJの開始時にやる事が明確になっている案件が多かった印象です。

DTCに入って特に戦略系・新規事業関連の案件をデリバリーする機会が増えました。外部環境が目まぐるしく変わり、日々自分の周りの情報へのアンテナを高くしておかないといけないと感じました。

また、カバーしなければならない知識も幅が広がり、より経営者目線での発言・示唆が求められていると感じるようになりました。

前職では海外拠点が多く、海外現地ではフリーランスメンバーと協業することも多かったのですが、デロイトグローバルネットワークを活用し、戦略案件から実行案件までデロイトメンバーファームのリソースで品質を担保することができるとは魅力の一つだと思います。

Q.DTCの良さを教えてください

A. 個人的にDTCは大企業とベンチャー企業をMixしたようなカルチャーだと感じています。デロイトとしての規模感やブランドバリューは大企業と同じようにあります。しかし、仕事の仕方は各個別PJ最適化されており、少人数で行うものも多いため、ベンチャー精神が必要となることも発生します。

自分のやりたいことを主張していけばやらせてもらえる風土もあり、自己実現は比較的しやすいプラットフォームではないかと思っています。

その風土は日本だけでなく、海外のデロイトコンサルタントも同様に持っているため、協業する際も障壁なくOne Teamを形成できるところも良いところだと思います。

Q.ファーム在籍者・出身者へのメッセージをお願いします

A. 私はAutomotive Unitに所属しておりますが、日本の基幹産業である自動車産業のこれほど深くかかわっているコンサルティングファームは他にないと思います。
担当しているクライアントの経営陣の皆様からも上記お言葉を頂いています。

DTCとして持っている戦略～実行まで寄り添って支援できるケイパビリティを活用し、
今後もよりお客様の課題解決のカバレッジを広げ、真の意味での経営コンサルティング(戦略・業務・ITどのようなこと課題も解決できる)サービスが提供できるよう、努力してきたいと思います。



想像以上に真面目、想像以上に自由

デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社
Finance & Performance パートナー
外資系コンサルティング会社出身
グループ内連携／多様な専門家との協働／社風

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.DTCへ移って来られるまでの経緯を教えてください

A. 元々、外資系コンサルティング会社に在籍しており、コンサルタントとして5~6年経験した後にコンサルタントを続けるか、事業会社に行くかを数年前から悩んでいました。
途中、事業会社に転職したこともありましたが、前職のコンサルティング会社に転職するタイミングでコンサルタントの道を選択しました。

しかし、グローバル案件やより専門性に特化した案件の実績を通じて大手企業とのリレーションを構築しなければ、将来的なキャリアを考えた際に仕事の幅が狭くなると感じ始めていた頃に他コンサルティングファームとDTCへの転職の話があり、Deloitteの「As One」の考え方があれば、幅広いコンサルティングをクライアントに提供出来ると感じてDTCに転職しました。

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？

A. 専門性の高い人材が多くクライアントの課題に対して最適なチーム体制で、社内ナレッジやグローバル企業の先進事例を参考にそれぞれの専門性を活かしながらクライアントに適した方法論を作ることが出来ています。
社内や監査法人、税理士法人などのグループ内に様々な専門家がいるので、プロジェクトスコープ外の問合せに対しても的確に対応可能であり、結果としてクライアントからの信頼感も向上し、複数案件へ広げることが出来ます。
自分の専門性とは異なる領域に関するクライアントからの問合せに対応していくことで、これまでとは異なる専門性の領域に関する知識が深まり、自分の専門性の幅が広がったことを感じています。

Q.DTCの良さを教えてください

A. 監査法人や税理士法人との連携がし易く、様々な視点（幅広いアセットの活用）とアジア地域を中心とする豊富な駐在員メンバーとの連携でクライアントの課題に対して対応することが出来、またその過程を通じて自分自身も知識・知見を習得することが出来ます。
“マチュア”な人が多く、お互いを尊重し、クライアントのために何が最適かを深く考える文化がある。また多様性を大事にする文化があるので、皆がそれぞれの価値観を持って様々な提案やソリューションを考え抜く文化は、自分にも非常にいい刺激になっていると感じています。また、DTC自体が成長過程のため、良い意味でまだ“未成熟”であり、楽しみながら会社の成長を実感することが出来ます。
他ファームに比べて規模の割には自由度が高く、プロジェクトにおける意思決定が早く出来るうえ、ユニット内の運営について主体的に推進出来る場です。



[一覧へ戻る](#)

[採用ページへ戻る](#)

Consulting is a service. Strive to serve for the client's best experience.

デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社
Financial Services Industry ディレクター
IT系コンサルファーム出身
グループ内連携／多様な専門家との協働

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.What motivated you to join DTC?

A. On my way out of undergrad my next step was focused on either consulting or the finance industry. My decision was why not both, consulting for the finance industry, and here I am. I joined an IT oriented consulting firm and experienced the full gamut in the finance industry from regional banks to global banks, securities firms and stock exchanges and even some insurance and pharmaceutical companies. I designed systems, designed data models, consulted on risk management and performed PMO support. Deciding then to shift to a more strategic consulting role but still be able to leverage my background to execute, I joined DTC. At DTC, a good mixture of strategy and execution was exactly what I got.

Q.How did you grow personally and achieve your goals since you joined DTC?

A. One of the first projects I worked on was about building a hypothesis, building a case by analyzing data to back the hypothesis and proposing the case to the client. The close collaboration with data analytics experts providing a set of new insights from a different angle led to building a stronger case and in the end allowed us to propose the case with full confidence to the client. This mobility to form the “best team” of experts with different backgrounds and skillsets locally/globally allows me to broaden my horizons and is something I look forward to in the future.

Q.Please describe any positive or strong points about DTC

A. The ability given for us consultants to leverage the entire firm to provide services to our clients amazed me from Day 1 in this firm. One year in the firm and I had already been given the opportunity to collaborate with accountants, data analytics experts and world renowned regulatory experts. In addition, the support from research specialists specifically for the Financial Services Industry, and the ease of tapping into the vast global knowledge resource of best practices, cleansed deliverables from past projects allows us to better meet client needs. But, what astounded me the most was the level of professionalism that individual Deloitte colleagues around the globe demonstrate to maintain this knowledge resource.



[一覧へ戻る](#)

[採用ページへ戻る](#)

クライアントやメンバーとともに、困難を乗り越え成長する 実感

デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社
Region マネジャー
ITソリューション企業出身
成長実感／多様な働き方／チャレンジできる環境

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.転職（就職）の際、コンサルタントという仕事の どのような部分に興味を持たれましたか

A.新卒で入社したSlrでは様々な業界のクライアントのビジネス要件を、テクノロジーで形にする楽しさを学びました。そして、その後転職した事業会社では、サービスを深く追求し、プロダクトや業務をITの面からプロデュースする責任にやりがいを感じていました。

事業会社のいくつかのプロジェクトでは、コンサルタントの方々に支援していただいたことがあります。その方々と接する中で、コンサルティングという仕事は、私がこれまでに経験したふたつの職種の両面の要素を持つと感じ、興味を持ちました。クライアントに伴走し、ビジネス戦略の検討や業務課題の解決を行うプロセスは、事業会社で私が魅力を感じていた点と重なります。しかしそれだけではなく、プロジェクト単位で多くのクライアントと向き合う機会を得られる点は、コンサルタント職の魅力だと感じました。

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？

A.私はITガバナンスやセキュリティに関するアドバイザリー業務に携わっており、クライアントが直面する内外のリスクや脅威に対し、リスク対策戦略立案や態勢・プロセス構築などを行っています。テクノロジーが日々進化するのと同じく、事業環境を取り巻くリスクや脅威も日々アップデートされています。そのため、私の経験や知識だけでは、リスクを戦略的にマネジメントすることは困難です。クライアントやチームメンバーとのディスカッション、デロイト トーマツ グループの様々なファンクションとの連携やナレッジ調査等を通して、ひとつひとつクリアしていきます。いろいろな人を巻き込みながらストーリーを描き、クライアントやチームメンバーと何かを成し遂げたとき、ともに成長できる喜びを感じます。

Q.DTCの職場環境やカルチャーについて教えてください

A.成長を支援する文化が浸透しているように感じます。評価やマネジメントを行う上長とは別に、個人のキャリア開発を支援するコーチ制度があり、コーチはキャリアステップに関するアドバイザリーを行います。プロジェクトアサインの際は、対象者のコーチにキャリア志向や状況を確認の上で、本人やプロジェクトマネジャーと調整を行います。また、働き方や多様性に関する意識も高いと思います。私の所属する福岡オフィスには、時短勤務制度や育児休暇を取得する男性マネジャーが何人もいますし、私自身二人の子供を育てながら働いていますが、そのことで困難やビハインドを感じるような場面はありません。



Q.コンサルティングファームへの転職を検討されている方にアドバイスおよびメッセージをお願いします。

A.コンサルティングファームは、厳しい業界だというイメージがあるかもしれませんが。確かに常に向上心や努力が必要ですが、成長したい人には、DTCは素晴らしい環境だと思います。切磋琢磨する優秀なメンバーがいて、成長を支援する文化や制度があります。そして、福岡拠点は比較的コンパクトな部隊でありながらも、様々な領域のプロフェッショナルがいますので、日々刺激を受けながら西日本・九州圏の多くの地域ビジネスに関与する機会があります。ぜひ一緒にできる機会を楽しみにしています。

▼ご興味ある方はぜひ！

< 応募職種一覧ページ >

[Region Division 西日本エリア（関西・福岡オフィス）コンサルティングサービス領域](#)

多種多様なバックグラウンドを持った仲間と、やりたいことにチャレンジ

デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社
Automotive シニアマネジャー
外資系ソフトウェア企業出身
多様性／女性活躍／グローバル連携

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.異業界からコンサルティング業界へ転職されたきっかけを教えてください

A.大学卒業後は、ソフトウェア会社にてシステム導入などの業務に従事しておりました。やりがいを感じつつも、システムがカバーする領域に縛られず、戦略から実行まで幅広い領域の支援をしたいと思うようになりました。そこで、まずはビジネスの知見を深めるため、英国の大学院でMBAを専攻しました。

世界各地域から集まる仲間と学ぶ中、自分の強みとは何か、日本の強みは何か、今後どのような人と働きたいのかを考えたところ、以下の3つが軸であると考え、転職活動を始めた中でDTCと出会いました。

1. システム知見を活かせること
2. 日本の基幹産業である「ものづくり産業」向けにサービスを提供できること
3. グローバルメンバーと切磋琢磨しながら働けること

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？ （前職では得られない魅力・充実感、スキルアップ等）

A.まずは、上記3つの軸が実現できる環境で働いており、やりがいを感じております。希望していた戦略から実行までのプロジェクトをデリバリーしておりますが、クライアントの真の困りごとやニーズを引き出し、そこから方針や戦略を策定し、実行に落とし込むまでは、毎回チャレンジがあります。

DTCの各分野のスペシャリストと共に、「何が必要か」、「なぜ必要か」、「なぜ今なのか」を、クライアントの各担当者の視点に寄り添って伝えていくと、相手から、「そういうことか、自分たちでもやり方を考えてみる」というポジティブな言葉を頂くことがあります。そのような時は、自分が成長できたのではないかと実感する瞬間です。

Q.DTCの職場環境やカルチャーについて教えてください

A.DTCのカルチャーは、周囲がいつでも協力的であることだと思います。自分のやりたいことを伝えと、実現できるよう直接アドバイスをしてくれたり、国内だけではなくグローバルネットワークから適任者を探し紹介してくれたりもします。そのおかげで、ドイツ出向も実現できました。

このような経験から、私自身、仲間から、こんなことをやりたい、または実現したいと相談があった時には、全面的にサポートするよう心がけております。



Q.コンサルティングファームへの転職を検討されている方にアドバイスおよびメッセージをお願いします。

A.私は、Automotive Unitに所属しておりますが、自動車業界は、「100年に1度の変革期」の真っ只中にあります。DTCは、自動車会社がこの変革を勝ち抜けるように戦略（本社の経営戦略）から実行（販売店の業務改善・デジタル化）までを、クライアントに寄り添って支援しております。今後は、さらに多種多様な知見が必要になってきております。ぜひ、皆様の知見・経験を融合し、より良いシナジーを創出していきませんか。

▼ご興味ある方はぜひ！

< 応募職種一覧ページ >

[Automotive（自動車領域）](#)

[Automotive（関西・東海エリア採用 / 自動車・製造業領域）](#)

異業種出身者ならではの価値は多彩。 是非チャレンジを。

デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社
Consumer Business & Transportation シニアマネジャー
中途採用
グローバル連携／チャレンジできる環境／成長実感

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.異業界からコンサルティング業界へ転職された きっかけを教えてください

A.新卒で入社した前職では、約10年間経営企画部に所属し、グループ会社の経営管理・支援を行いながら、組織再編やM&A等のプロジェクトに従事していました。グループ全体に波及する様々なテーマに従事できる恵まれた環境ではありましたが、内向きの実務を繰り返す中で、業界を超えたネットワーキングや体系的なビジネス知見の学びを求めて、自ら国内のMBAに通い始めました。日々、学習したことを仕事の中ですぐに実践するという2年間を過ごす中で、様々な業界から集う仲間からの刺激を受け、コンサルティングにチャレンジしたいという思いが強まり、MBA卒業直後に転職を決意し、入社しました。

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？

A.DTCは、飽きることのない多種多様なテーマが舞い込んでくる、もしくは、自ら掴みに行ける、という環境で、かつ、それを乗り越えるためのバラエティに富んだ仲間が身近にいるという環境ですが、私個人としても、日々、InputとOutputを繰り返すことで、自分なりの課題解決の型を蓄積しながら、成長できていると感じています。特に、前職ではチャレンジできなかった経営課題に対して、クライアントとともに汗をかきながら取り組み、結果を出した時には、大きな充実感とともに、改めてコンサルティングにチャレンジして良かったと感じます。

Q.DTCの職場環境やカルチャーについて教えてください

A.異業種から飛び込んだ人材でも、その強みに着目し、尊重・育成しようとする雰囲気や制度がある点は挙げられると思います。例えば、入社直後から、業界出身者として意見を求められることも多かったですし、プロジェクトの中では、クライアントの特徴を捉えたコミュニケーションの推進等は、私自身の強みとして評価してくれる場面が多くありました。加えて、まだまだ成長途上の会社で、社内ルールや組織等がどんどん変化しているので、変化に対する柔軟性・耐性が組織的にあると感じます。私自身も、所属ユニットの組織改善に取り組んでいますが、ユニット・部門・会社の課題や改善策を提案できる機会は多く存在するので、各メンバーが、他人任せにするのではなく、主体性を持って組織をより良くしていく雰囲気はあると思います。

Q.コンサルティングファームへの転職を検討されている方にアドバイスおよびメッセージをお願いします。

A.DTCという組織を最大限活用して、世の中に広くインパクトがある課題に向き合い、その中で自己成長したい人にはお薦めの会社だと思います。もちろん、自分自身も成長し続けなければならないというチャレンジングな側面もありますが、それを支える制度やマインドを持ったメンバーが揃っていますので、モヤモヤ悩んでいるくらいなら、ご自身を信じて、是非チャレンジしてみてください！



▼ご興味ある方はぜひ！

< 応募職種一覧ページ >

[Consumer（消費材、小売・流通、航空運輸・ホスピタリティ・サービス領域）](#)

バックグラウンドを活かした"その人ならではの"価値提供

デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社

Consumer Business & Transportation シニアコンサルタント

中途採用

女性活躍／チャレンジできる環境／成長実感

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q. 転職（就職）の際、コンサルタントという仕事のどのような部分に興味を持たれましたか

A. 事業会社でシステム担当をしていたのですが、関係者が多く、調整が難しい場面も多くありました。都度、わかりやすい説明や進め方を検討し、その結果、PJを推進できた際にやりがいを感じていましたが、そのメソッドは手探りであり、より最適な手法を習得したいと考えていました。コンサルタントであれば、その点の強化ができるのではないか、と思ったのがきっかけでした。加えて、目の前のシステムに向き合っただけで最適化を検討するだけではなく、より広い視点で、どのようなシステムがその会社・組織・業務にとってマッチしているのか、グローバルでの最新トレンド等もふまえて、高い視点での検討ができるようになりたいと考えました。

Q. DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？（前職では得られない魅力・充実感、スキルアップ等）

A. まずは、スキル面です。基礎スキルに加えて、案件を前に進める課題抽出・アプローチ設計等を強化することができたことは、今後のキャリアにとっても貴重な経験だと思っています。物事が進むスピードも早く、密度高く経験ができています。

次に、想像以上に、多様な経験ができています点です。自分の希望を発信し実現するチャンスもあり、これまでIT領域を軸に業界横断での経験や、海外オフィスメンバーとの協業等も経験できました。基本的にはルーティンワークはなく、新しいことの連続なので、推進方法の検討やお客様に提供できる価値の向上方法に毎度頭をひねり、日々新鮮な気持ちで業務しています。

Q. DTCの職場環境やカルチャーについて教えてください

A. 想像していたよりもフランクでサポートティブだと感じています。上司とのコミュニケーションやフィードバック機会も多くあり、成長を目指す人を会社としてサポートしようとする雰囲気があると感じました。

また、いろいろなバックグラウンドの方がいる環境だからこそ、個を尊重する雰囲気も浸透しています。役職・属性に関わらず意見を聞かれますし、異なる意見があるからこそ新しい価値を創出できる、という理解もあります。出産・育児についても制度があり、自分の希望次第で、調整がしやすい環境だと感じています。私も現在育児中で、一時期、夫が中東赴任で不在の期間もありましたが、引き続きフルタイム勤務しています。

Q.コンサルティングファームへの転職を検討されている方にアドバイスおよびメッセージをお願いします。

A.コンサルタントは、スキルアップとともに、ご自身の専門性の追求や興味ある分野へのキャリア形成をしやすい環境だと思います。またDTCでは、自ら手を挙げる人や成長のために頑張る人を応援する雰囲気があり、チャンスも多く存在します。

自分の道を追求したい方にも、決められたルートだけでなく自分で道を切り拓きたい方にも、柔軟に対応できる環境だと感じています。ぜひご検討をいただければ幸いです。



▼ご興味ある方はぜひ！

< 応募職種一覧ページ >

[Consumer（消費材、小売・流通、航空運輸・ホスピタリティ・サービス領域）](#)

「私らしく」いられるDTCで、価値創出と自己成長を実現

デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社
Insurance マネジャー
新卒入社
女性活躍／チャレンジできる環境／成長実感

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



転職（就職）の際、コンサルタントという仕事のどのような部分に興味を持たれましたか？

A. 元々私は、大学で映画・アニメ製作を学び、卒業後はハリウッドに行きプロデューサーになるんだ！と思っていましたが、絵しか描いてこなかった自分がプロデューサーになるにはビジネスも学ばないといけないと思い、大学院ではビジネスを学びました。
その時のクラスメイトにコンサルタント出身者が何人かいて、「1つの企業に属しながら、様々な業界・領域に関する経験を積むことができる」という話を聞き、コンサルタントという仕事にワクワク感を感じていました。改めて、コンサルタントという仕事を振り返ると、この業界は常に成長し続けられる環境に自らを置くことができる、やりがいがあり刺激的な仕事だと実感しています。

中立的にアドバイスをする立場ですので、常に多方面の最新の動向・方法論などをグローバル規模で学び続けることが重要で、それはパートナーのような上位ランクになっても同様です。
映画の世界に居続けていたら知らなかった世界や業界に触れ、知識もマインドセットも各段に幅が広がり、コンサルティング業界に入って本当に良かったと、今はそう感じています。

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？

A. 学生時代に得たデザインやクリエイティブスキルを活かし、クライアントに貢献できている点に自己成長を実感しています。
大学時代は映画・アニメ制作学部で、映像・脚本やアートの歴史等の様々な「表現」を通じ、人々を感動させる方法論を学びました。
これらの「表現」するスキルは、一見すると私のクライアント（保険会社）の業務に関連が薄いと思うかもしれませんが、デザイン思考やクリエイティブを通じて感動的なエクスペリエンスを提供する観点で活用できています。
デザイン思考を通じた新体験・新ストーリーを構築するプロジェクトを複数支援し、金融業界を従来のイメージから、より親近感のある存在へ一新させる事に価値を感じています。
今まで学んできたアートのスキルが、コンサルティング業界でも通用しクライアントから求められることで、社会活動・経済活動の一躍を担っているというやりがいや自己実現を実感しています。

Q.DTCの職場環境やカルチャーについて教えてください

A. DTCは私が私らしくいられる職場です。私は外国人で、私以外にも外国籍の方も多数在籍していますが、DTCは多様性を重んじた職場であり、私の強みを活かし、弱みをカバーしてくれるような業務付与や役割分担をしてくれるため、得意領域でバリューを発揮し会社に貢献しようという意欲が湧きます。

また、年齢やランクにとらわれず風通しの良い環境で、フランクな相談や助け合いがグローバル規模で活発に行われています。
新卒入社してまだ半年の頃、クライアントからご提案の機会をもらった際に、まだ進め方がわからず、同僚やマネジャーに相談せず直接パートナーに電話したこともあったのですが、その際もそのパートナーと一緒に提案活動をしてくださり、プロジェクト化できたことは今となっては良い思い出です。



Q.コンサルティングファームへの転職を検討されている方にアドバイスおよびメッセージをお願いします。

A. コンサルタントという仕事は、確実に視野が広がり、自身の領域を拡大できる機会になります。また、評価がしっかりしていて、年齢や属性に関わらず実力主義の職場です。
デロイトの海外メンバーと接点を持ち仕事をする機会もあるため、日本にはまだない考えやビジネス手法等を学べる刺激的な環境です。
「このままでいいのだろうか」、「もっと成長したい」、「いつまでもチャレンジしていきたい！」そんな思いが少しでもある方は私の経験を通じ、ぜひコンサルタントという仕事に興味を持っていただけたらうれしいです！

▼ご興味ある方はぜひ！

< 応募職種一覧ページ >

[Insurance（保険領域）](#)

自分色のコンサルタントになろう！

デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社
Life Sciences and Health Care コンサルタント
製薬会社出身
チャレンジできる環境／女性活躍

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.異業界からコンサル業界へ転職されたきっかけを教えてください

A. 前職でPost-Merger Integration（企業統合後のマネジメント）に関するプロジェクトマネジメントオフィスを担当し、企業の成り立ちや、部署ごとの課題感や考え方の違いを知る機会を得ました。部署間調整を多数続けていくうちに、ヘルスケア業界では「それぞれの部署が考えている課題感を横ぐしでつなぎ、一丸となって解決する事が、変革の時代を乗り越えるKeyになるのではないか」と考え始めました。幅広い課題にプロジェクトベースで立ち向かい、多種多様な経験を積むコンサルタントであればそのような存在に近づけるのではないかと考え、コンサル業界に興味を持ちました。

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？

A. 周囲からのサポートが手厚く、コンサルタントとしての基礎能力を比較的短期間で成長させることができると感じます。2週間に1度のフィードバックのみならず、日常業務での作業を通じて丁寧で的確な指導をしてもらっており、日々成長中です！また、取り組みたいと思っている課題を明言すれば、チャンスを与えてもらえることもDTCの魅力です。私はグローバルの課題解決にとても興味があるのですが、最近パートナーの米国出張に同行させてもらう事が出来ました。そこで世界中に広がるデロイトのグローバルネットワークの強さと一つのチームとして協力したり、知見を共有する仕組みを学び、グローバルプロジェクトでの自身の動きも磨かれていると感じています。

Q.異業種からのコンサル業界への転職の成功ポイントを教えてください

A. 異業種での経験を武器にできるよう、自分の強みを棚卸しておくことだと思います。コンサルタントとしての基本的な能力（ロジカルシンキング、PPT/Excelの取り扱いなど）は中途入社であってもきちんと教えてもらえるので、その上で、自分が活かせる武器は何かを周囲に明確に伝えられるようにしておくの良いのではないのでしょうか。武器が明確な人は、力を発揮しやすいプロジェクトにアサインされたり、自分にマッチした活動の声がかかりやすく、転職後うまく軌道に乗れるのではと感じています。

Q.コンサルティングファームへの転職を検討されている方にアドバイスおよびメッセージをお願いします。

A. DTCは取り扱う案件の種類も多く、世界中のデロイト ネットワークと知見の共有をしています。コンサルティングファーム全体にいたる事だと思いますが、扱う案件の幅の広さが自慢の業界ではないでしょうか。それ故に、みなさんのこれまでの経験や、得意な事、人と違った事が必ず活かせる業界とも言えます。一緒に自分だけのコンサルティングスタイルを模索し、色鮮やかな職場を楽しみましょう！



▼ご興味ある方はぜひ！

<応募職種一覧ページ>

[Life Sciences & Health Care（製薬、医療機器、医療・異業種参入領域）](#)

[一覧へ戻る](#)

[採用ページへ戻る](#)

企業の変革をサポートするため、成長し続ける

デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社
Process シニアコンサルタント
新卒入社
成長実感／社風

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.就職の際、コンサルタントという仕事のどのような部分に興味を持たれましたか

A. 企業の課題解決という仕事の意義の大きさと、早いスピードで成長できる環境があるという点です。

就職活動の際は、ビジネスを通して世界をより良くする、日本企業をもっと強くする、といったことに貢献したい、またそれができる人間に早くなりたい、と漠然と考えていました。

コンサルタントの仕事は企業の変革支援そのものであり、また、ファームにはそのために必要なスキルを早くから身に着けることができる環境があるということを知り、コンサルティング業界に興味を持ちました。

特に、デロイト トーマツ コンサルティングが「社会課題解決に取り組む」ということを掲げていた点には強く共感していました。

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？

A. ありきたりな話なのかもしれませんが、コンサルティングのベーススキルを学ぶことができていると思います。

論点志向、仮説志向等、課題解決のための物事の見え方を入社の研修後やプロジェクトを通して学んだときは心から感動したのを覚えています。

また、私は素材・化学業界のチームに所属しているのですが、クライアントが今まさに抱えるサステナビリティ（サーキュラーエコノミー、脱炭素等）やデジタルトランスフォーメーションといった課題の解決に仕事を通じて携われることができ、やりがいを感じています。

今挙げたスキル面、及び社会課題解決への貢献はこれからも力を入れ続けていきたいです。

Q.DTCの職場環境やカルチャーについて教えてください

A. 私のユニットでは、他ファーム出身者、事業会社出身者、デロイト トーマツ コンサルティング新卒入社等、多様なバックグラウンドの方がそれぞれの強みを生かしています。また、自発的に動くことで機会を得ることができる職場環境であると考えています。自発的に動き、相談すると、アドバイスをしてくれる方々が周りに必ずいます。

カルチャーの面では、コンサルはドライと思われがちですが、人間関係構築を積極的に行っている方が多く、リモートワーク中心に移行後も、オンラインで懇親会が積極的に行われています。

Q.コンサルティングファームへの転職を検討されている方にアドバイスおよびメッセージをお願いします。

A. コンサルは、刺激的でやりがいのある仕事だと考えています。私のユニットは業界の特性もあってか、デロイト トーマツ コンサルティング他のユニットと比べると女性は少ないのですが、性別関係なく活躍できる仕事なので、女性メンバーにとってもチャンスが多い職場だと考えています。加えて、道を切り拓いてくださった女性メンバーの先輩方がいらっしゃるため、とても心強いです。

ぜひ、コンサルティングのキャリアに挑戦してみてください！



日々、自分が社会に与えるインパクトを実感

デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社

Civil Government マネジャー

新卒入社

チャレンジできる環境／成長実感

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.就職の際、コンサルタントという仕事のどのような部分に興味を持たれましたか

A. 私は新卒でデロイトトーマツコンサルティング（以下、DTC）に入社をしました。就職活動の際には、日本社会に影響を強く与えられるような仕事に就きたいと漠然と考えていました。大学生活の中では「働く」ということすら明確に理解できない中、自分のやりたいことも明確に定まっていなかった状況で、迷いながら就職先を模索していたことを記憶しています。業界研究をする中でどの業界も社会に何らかの形で影響を及ぼしており、魅力的に見えていました。そんな中、経営コンサルティングに就職した先輩から話を聞く機会があり、この業界に興味を持ち始めました。話を聞いていくうちに、社会にインパクトを与える業界に就くのが大事なのではなく、社会にインパクトを与える人になることも重要であると思うに至り、自己成長と自己実現の双方が出来るコンサルティング業界を志すに至りました。

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？

A. 私は現在DTCで、官公庁のサービスを主に行っております。DTCのクライアントは業界でも一流の企業・組織が中心となっており、更に重要な意思決定に関与している方がカウンターパートとなっていることが多いです。このようなクライアントと仕事をするを通じて、自分の仕事が直接的に社会に対して影響を及ぼしていると感じることができ、日々充実感をもって働くことができています。

また、重要な意思決定に際しては、DTCの様々なエキスパートと協業しながら、熟慮に熟慮を重ねて最善と思われる提案をしていきます。エキスパートと質の高い仕事をするためには、当然自分自身も相応の人間になる他なく、日夜勉強を行いながら業務にあたっていました。仕事をこなしながら勉強もしていくことが辛い時もありましたが、気が付く頃には、自分も人に誇れる専門知見と経験を身に着けるに至っていました。

Q.DTCの職場環境やカルチャーについて教えてください

A. DTCには、学び合いの文化とチャレンジの文化があると感じています。

チームメンバーへのナレッジシェアが頻繁に行われおり、それが知識集団を形成しているのではと思っています。自分自身、同僚と勉強会を企画することもありますし、その中で参加者から質問や関連知見を紹介してもらうことで企画者である自分の知見も深まっています。

また、チャレンジの文化については、自分の幅を広げる機会が積極的に紹介され、その機会に当たっていく中で自分の幅が広がっていくことを感じています。

Q.コンサルティングファームへの転職を検討されている方にアドバイスおよびメッセージをお願いします。

A. DTCには最高の環境があると思います。成長の機会に溢れているだけでなく、仕事を通じて日々社会に対するインパクトを与えている実感があります。そのような日々が、今この世に生きているのだ、と感じさせてくれます。是非共に成長する日々を歩むことができれば幸いです。



想い溢れる同志と、切磋琢磨し道を切り開いて いきたいならば、、、

デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社
Customer&Marketing マネジャー
国内Sier出身
グローバル連携／社風

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.異業界からDTCへ転職されたきっかけを教えてください

A. 前職は国内Sierでシステムエンジニアでした。転職のきっかけは勤続10年になる前に今後のキャリアを考え直したことで、転職のポイントは2つ、1つはシステム導入のみならずクライアントの根本課題を解決すべく業務改革など上流にチャレンジしたかったこと、もう1つはグローバルの経験を積みたかったことです。今、どちらの目標も達成しているのでデロイト トーマツ コンサルティング（以下、DTC）の門戸を叩いて良かったと強く感じています。

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？

A. 接するクライアントが大企業のCxOや部長クラスになったことから視野を広げる必要性に迫られ、常に全体から、長期の視点で、かつ様々な角度から物事を考える習慣ができました。常に忙しいポジションの方々のため、端的に本質を突く伝え方や、臨機応変なやりとりにも即座に対応できるよう引き出しを多く持っておくことなど対応スキルが身につきました。

また、グローバルプロジェクトを経験して日本にとどまらず欧州、APAC等多様な価値観に触れ、ノウハウ、メソッドを吸収できた点も大きいです。優先付けや結論ファーストなど頭では分かっていたことも、実際に日々接して議論を交わすことで体験として蓄積し、自分のメソッドとして活用できるようになったと感じています。

Q.DTCの職場環境やカルチャーについて教えてください

A. DTCに入って一番良かったと思うこと、そしてアピールできることはヒト、カルチャーです。

DTCでは意識高く仕事に打ち込んでいる人ばかりで、日々刺激を頂いています。受け身な人はおらず、皆率先して課題を解決すべく全力を打ち込んでいます。

同時に、Up or Outのようないわゆる外資コンサルのイメージは無く、チームとしてパフォーマンスを上げられるよう皆でフォローしあうカルチャーがあります。また中途社員の割合も多いことからキャッチアップの為にツールや環境が整っており、私も入社時に転職自体もコンサル業界も初めてで右も左もわからない時に、様々な人が手を差し伸べてくれたことは非常に心強かったです。

Q.コンサルティングファームへの転職を検討されている方にアドバイスおよびメッセージをお願いします。

A. DTCにはヒトの成長を支え、互いに切磋琢磨し、クライアント含めOneチームを長期的に構築していくカルチャーがあり、確固たる意志を持った人が集まっています。同時に様々な知見、スキル、専門性を活かせる機会があります。

カルチャーに共感頂き、ご自身の経験を活かせる機会が何かしら見えたのであれば、是非とも共に働けることを心待ちにしています。



もしあのとき手を挙げていなければ

デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社
Human Capital シニアコンサルタント
人事系ベンチャー企業出身
異業種からの転職／人材育成／ワーキングプログラム

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.DTCに入って来られるまでの経緯を教えてください。

A. 新卒で入ったのは約300名の人事系ベンチャー企業です。システム開発と導入に携わりながら5年勤めた頃、シンガポールに新拠点を設ける話が持ち上がり、初期メンバー3人の枠に手を挙げました。海外に興味があったわけではないのですが、新しいことをやりたいタイミングだったのと、今行かなければ一生海外勤務はないと思ったのが理由です。現地では丸2年間勤務しました。

Q.そもそも人事を目指したのはなぜですか？

A. 学生時代のチームスポーツ経験が大きいです。キャプテンを務める機会が多く、チーム全体の成果向上や個人の能力の引き出し方などを常に考えてきて、やはり組織は人という実感が身につきました。

Q.キャリアチェンジでコンサルタントを選んだ理由を教えてください。

A. 前職でシステムベンダー寄りの仕事に携わる中で、自社システムの導入だけでは解決しきれない課題があることにもどかしさを覚えるようになりました。コンサルタントであれば様々なシステムから最適解を選択し、システム導入にとどまらない幅広いソリューションを顧客に提供できると考え、キャリアチェンジを決めました。数あるファームの中からDTCを希望したのは、私が転職活動をしていた当時のDTCの社長が、『100年先に続くバリューを、日本から。』というメッセージのもと、海外に進出する日本企業を強くしたいという思いを発信していたからです。Deloitteのグローバルネットワークに属しながらアイデンティティは日本という考え方は、シンガポールで働いていた自分に強く響きました。

Q.DTCで働き始めた感想は？

A. ゴリゴリ働くイメージを持っていましたが、前職でもそれなりに働いていたので、こう言うては変ですが意外と楽に感じました。しかし仕事で求められるレベルは前職以上。何よりコンサルタントの基本的スキルであるロジカルシンキングに経験値がなかったので、その点では苦労しました。そんな私でもやっていけたのは、メンターとの定期的な面談を始めとした周囲の手厚いサポートのおかげです。キャリアを積むための適切なマイルストーンを置いてもらえたことに感謝しています。

Q.海外赴任経験を踏まえ、DTCがグローバルファームだと実感した瞬間は？

A. まずは入社3日目に一人でUS研修に行かせてもらったことですね。その3か月後には、シンガポールで開催されたDeloitte主催の研修会に参加し、同じ領域で活躍するグローバルメンバーのナレッジに直に触れることができました。現在もシステム導入案件でインド、香港、USと日常的なコラボを行っていますが、文化や習慣の違いを受け入れながら協業する中で、日々自分自身が変わっていく経験は何にも代え難く楽しいです。前職のシンガポールでの経験以上に日本にいながらグローバルを実感する毎日で、もしあのとき手を挙げていなければ今ここにいないだろうというのが、私の職歴を踏まえた実感です。

Q.働く環境はどう感じていますか？

A. 労働時間の希望を叶えるワーキングプログラムはもちろん、産休や育休から職場復帰した方が精力的に働いている姿を見ていると、各種の制度が正しく機能していると思います。ライフステージが変わっても仕事をあきらめたくない私にとって、この環境は最良と言えます。

*ワーキングプログラム：育児者、介護者、不妊治療者などを対象に、業務負担を軽減したり、勤務時間・場所について個別の取り決めをすることで、柔軟な働き方を可能にする制度

Q.今後HCで挑んでみたいことは？

A. ひとつは、異なる領域のメンバーとコラボして得意分野以外のサービスを提供すること。もうひとつは、なるべく早くマネジャーになることです。

Q.ランクへの意識が強いのですか？

A. 単にランクが目標ではなく、信頼してくれるメンバーとチームで働ける醍醐味を味わうには、責任と裁量が必要だからです。私は責任に伴うリスクにマイナスイメージがありません。よりおもしろい仕事ができるなら、上れる階段は昇っていきたいです。



Q.転職を経てDTCを目指す人にメッセージをいただけますか？

A. 私が転職を考えたときに行ったのは、スキルの棚卸でした。これまでの経験を違う業界でどう生かせるのか。コンサルタントになるなら何を身につけなければならないか。キャリアを検討する局面では徹底的な自己分析が欠かせないと思います。元々悩むのが苦手で、5分考えたらひとまず走り出す。もし間違っていたら軌道修正すればいい。そんな性格は、スピード感が重要なコンサルタントに合っているだろうと分析したのも棚卸の結果でした。

パブリックセクターの原体験をプロジェクトに生かしたい

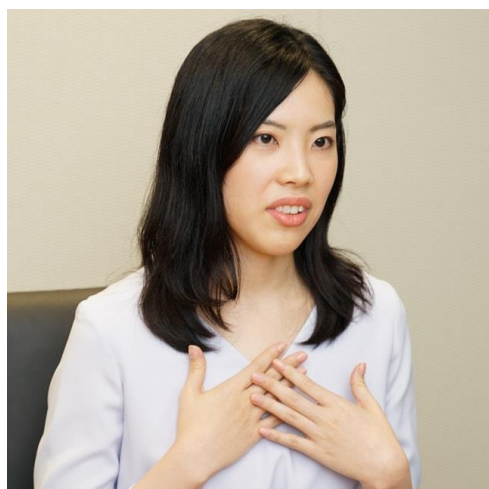
デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社

Human Capital シニアコンサルタント

公務員出身

異業種からの転職／ワークライフバランス／社風

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.DTCに入って来られるまでの経緯を教えてください

A. 前職は公務員です。会計検査院という、端的に言えば国の無駄使いをチェックする独立機関に4年ほど勤めました。在職中は与えられた仕事に精一杯向き合っていました。機関の特性上、各組織の問題点を指摘できても改善には深く踏み込めないことにジレンマを感じてしまいました。そこで、長期的なキャリアを真剣に考えた末に新たな挑戦をしようと決断しました。

Q.コンサルタントへの転職を目指したのはなぜですか？

A. 何かを変えたい、良くしたいという強い意欲を持つ人に憧れを抱くところがあって、そんな人々を応援できるのがコンサルタントと考えたからです。人事を希望したのは、学生時代からの心理学や労働行政への興味が原点です。DTCは人事領域の規模が大きく、また内容也多岐に渡っていたので、ここなら私でもやっていけそうな可能性を感じました。

Q.入社前のイメージと入社後の現実にギャップはありましたか？

A. 年功序列ではなく実力主義の世界で、できない人間は追いつめられるのだろうと覚悟していました。けれど入社してみると、上から価値観を押し付けるのではなく、話をよく聞いて一人ひとりを理解してくれようとする方が多く安心しました。できないことに関しても上司や先輩から責められるのではなく、一緒に解決方法を考えてくれます。とはいえ、クライアントに対するパフォーマンスは、高いレベルが求められます。前職では経験しなかったプレゼンにも苦労しました。クライアントの前で上手く伝えられず、見かねたマネージャーに割って入られたときは自己嫌悪に陥りました。

Q.苦い経験はどのように乗り越えましたか？

A. 周囲のサポートに救われました。助けを求めればできるまで教えてくれる方がDTCには多いです。たとえば私が苦手としたプレゼンも、有志が集まって練習会を開いてくれました。それからCheck-inという制度にも大いに救われています。これは、1～2週間に一度、同じプロジェクトに携わる上司から、業務に関するフィードバックを受けたり、仕事上の悩みを相談したりできる制度です。そんな助け合いの経験を積み重ね成長していくと、やがて個人の裁量に委ねてもらえる領域が増えていきます。それはこの仕事をしていく喜びですね。その一方で、プロジェクトの進め方やクライアントとのコミュニケーションなど、任せてもらえる範囲が広がると、自分の発言や行動の重さを実感する場面も増えます。入社4年を経て、少なからず自信がついてきた証拠かもしれませんが、自身の責任を強く意識するようになってきました。

Q.働く環境はどう感じていますか？

A. 柔軟な働き方ができています。DTCに入社した時点から、不要な長時間労働はせず効率的に働きたいと考えていました。実際に通勤ラッシュを避けて遅めに出社したり、仕事量が少ない日は早めに帰宅して自炊したりと自分の生活のペースに合わせて仕事ができます。場所に関しても、オフィスに来る必要がなければ自宅で作業することが可能です。それも個人の裁量ですね。

Q.今後HCで挑戦したいことは？

A. 入社年数に鑑みても、そろそろ専門性を確立したいところです。「このトピックなら」と指名される人材になりたいですね。その上で、パブリックセクターで働いた私の原体験を各プロジェクトにどう生かせるか。未知数ですが、その実現は個人的な目標のひとつです。



Q.コンサルティングファームへの転職を検討されている方にアドバイスおよびメッセージをお願いします。

A. 私の場合で言えば、公務員とコンサルはまるで違った世界でしたから、戸惑うことはたくさんありました。特にDTCでは、常に「何をしたいか？」が問われます。それも当初は、単なる願望や我がままと混同してしまい、上手く表現できませんでした。しかし、自分の意志や考えが確立されていなければ、クライアントに対して本当にインパクトのある仕事はできないと思いますし、自分らしい働き方・生き方も実現できません。そして強い意志を持ち、それを周囲に伝えていくことができれば、ここでは多くのサポートが受けられます。コンサルへの転職についてアドバイスするなら、自分のキャリアは自ら築き上げていくものだという意識を持ち、自分から発信・行動することが重要ということです。

異業種からの転職を障壁と捉えず、成長・自己実現の機会を掴んでほしい

デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社
Finance & Performance マネジャー
総合電機メーカー出身
異業種からの転職／社風

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.異業界からコンサル業界へ転職されたきっかけを教えてください

A. 前職の総合電機メーカーで経理や経営管理業務を経験する中で、「煩雑な業務をもっと効率化したい」「事業価値向上に寄与するより効果的な経営管理を行いたい」といった思いを日々感じていました。しかし、改善手法に関する自身の知見不足や、通常業務以外で割ける時間の制約等もあり、中々改善施策を打ち出すことができずにいました。

そんな中、外部専門家として豊富な知見や先進事例を活用しながらクライアントの変革を支援するコンサルタントの存在意義を強く感じるようになり、自身もその立場から同様の悩みを抱える多くのお客様の課題解決に貢献したい、またその過程で自身の専門性・スキルを研鑽したいという思いから、転職を決意しました。

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？

A. プロジェクトにおける各種課題に対して、多様な知見を持つデロイト トーマツ コンサルティング（以下、DTC）メンバーやお客様と一緒に頭を悩ませながら議論を行い、一步一步解決に取り組むというプロセスはとてもエキサイティングであり、やりがいを感じながら充実した日々を送ることができています。

またプロジェクト以外では、サービス開発や提案活動に関わらせていただく機会も多くあり、入社前の期待以上に自身の知見が日々広がっているように感じています。

事業会社との違いとしてよく言われますが、ルーティン業務が一切無く、次々と新しいチャレンジが続くので、知的好奇心が旺盛な方や変化を楽しめる方にとっては最適な環境なのではないでしょうか。

Q.DTCの職場環境やカルチャーについて教えてください

A. 一言で表現するなら、「温かみのあるファーム」だと感じています。

入社前は非常にドライなカルチャーを想像しておりましたが、入社後の印象は全く逆で、「お客様への価値提供」という共通目的の下に、プロジェクトやユニットを越えた協力が盛んに行われており、個々の成長へのサポートは当然のこととして認識されているように感じます。

私はコンサルティング未経験での入社でしたが、比較的短期で慣れることができたのは、上記カルチャーに基づく周囲の方からの積極的なサポートや、各種研修や定期的な面談といった制度のおかげだと思っています。



Q.コンサルティングファームへの転職を検討されている方にアドバイスおよびメッセージをお願いします。

A. 異業種からの転職は、新たなスキルセットが求められることや、働き方等の環境変化といった観点での不安を感じると思います。私自身も、入社直後にバリューが中々出せずに悩むこともありました。しかし、諦めずチャレンジする姿勢さえ忘れなければ、個々の成長・自己実現を支えるカルチャーや制度がDTCには存在しますので、異業種出身であることを障壁と捉えずに是非前向きにDTCでのキャリアを検討いただければと思います。

キャリアを変える/新天地に飛び込む勇気

デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社
Finance & Performance シニアマネジャー
異業種からの転職／働く環境・魅力

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.就職の際、コンサルタントという仕事のどのような部分に興味を持たれましたか

A. 元々、大学院で工学を学んでいた自身にとって、コンサルタントという仕事の魅力は大きく3つありました。

1. 年功序列ではなく実力主義であるところ
2. お客様（クライアント）と一緒に価値を創造できるところ
3. 企業や市場、世界を変えられることができるポジションに存在するところ

実際にこの業界に飛び込んでみて、上記の魅力は正にこの職にチャレンジする前に想像していたものと一致するものでした。

寧ろ、第三者的な視点からアドバイスを提供するというより、クライアントと協業しながら一緒に“より良いもの”を創っていくというスタイルは、良い意味で自身の想像を超えたものであると日々感じています。

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？

A. デロイトトーマツコンサルティング（以下、DTC）に参画して感じることは、大きく3つあります。

1. 自身の知見を拡張するためのチャンスが想像以上にあること（グローバル連携、他ファンクション連携、等）
2. 手を挙げれば、惜しみなく会社・組織としての支援を得られること
3. 日々切磋琢磨できる環境、仲間が周りにあること

“毎日”といっても過言ではないほど、日々新しいテーマに触れることができ、自身の経験や知見、スキルを向上することができるチャンスが周りに満ち溢れている、と感じています。

Q.DTCの職場環境やカルチャーについて教えてください

A. DTCの特徴は、

1. とても真面目
 2. 面倒見が良い、成長・育成への支援を惜しまない
 3. 組織の垣根を超えた連携を惜しまない
- ことだと実際に働く中で感じています。

特に育成面に関しては、各種のトレーニングが用意されており、またグローバル（US）で主催されるトレーニングに現地で参加させてもらったり等、数々の投資が行われています。



Q.コンサルティングファームへの転職を検討されている方にアドバイスおよびメッセージをお願いします。

A. キャリアチェンジには大きな“期待”と“不安”が伴うものと思います。DTCには、皆さんのキャリアを実現するための多くのチャンスが存在します。ぜひ一緒に創れる機会を創れればと思いますので、チャレンジをお待ちしています。

実現したい未来を、共に目指すことができる仲間や環境がある。

デロイト トーマツ コンサルティング 合同会社
Life Sciences and Health Care マネジャー
営業職経験／情報システム部門出身
女性活躍／ワーキングプログラム／社風

※役職・内容はインタビュー当時のものになります。



Q.異業界からコンサル業界へ転職されたきっかけを教えてください

A. 大学時代は産業組織論・企業経済学を専攻しており、企業行動の分析に興味がありました。まずは企業がどう運営されているのか内側から理解したいと思い、事業会社で営業を経験したのち、多岐に渡る部門とやりとりができ、事業を俯瞰できる情報システム部へ異動を希望、上場支援やERP導入を筆頭にビジネスを構築・改善する機会に恵まれ、企業変革に携われていることにやりがいを感じていました。

その後、既存業務の枠を超え、よりグローバル且つ世の中にインパクトを与える仕事がしたいという想いと、自身の成長スピードを加速できる環境に身を置きたいという気持ちから、10年前に転職しました。

入社後2年ほど複数部署を経験し、その中でもこの先、業界として大きな転換が見込まれ、コンサルティングテーマも多岐に渡りそうなライフサイエンスヘルスケア業界に興味を持ちました。

Q.DTCに入って、どのような自己成長や自己実現ができましたか？

A. 事業会社にいた頃、ぼんやりとしか感じ取れていなかった企業課題に対する解像度が上がりました。ビジョン・ミッションとは、中計・事業計画とは、企業ブランディングとは、採用・育成とは、、、うまくいっていないことはわかるが、根本的な課題やとるべき対策はなにか、解を求めていることがクリアになりました。コンサルスキルを一から学ぶことができ、多様な経験を通じて仕事の質・幅が増え、一層のやりがいを感じています。そして、「自分なんてまだまだだ」と思えるほど尊敬できる人たちに囲まれ、日々たくさんの刺激・気づきを得られています。

ビジネスを通じた世界の広さと、デロイトのグローバルネットワークを通じた世界の狭さを両側面から感じることができ、この業界に携わる様々なステークホルダーと一緒に10年後、20年後の新しい未来を創り上げる面白さを感じています。多岐に渡るテーマに飽きることなく、そして目指していた自分に近づけている嬉しさもあります。

Q.DTCの職場環境やカルチャーについて教えてください

A. 好奇心旺盛で、社会をよりよくしたいという熱い想いを持っている人が多く、医師、看護師等の医療従事者、研究者、製薬・医療機器企業出身者など多種多様なバックグラウンドを持ったメンバーが集結し、アイデアを出し合って新しいビジネス機会を創出したり、地に足のついた提案ができるというのが強みで、それが実現できる風通しのよさがあります。

また、私には幼い子供がいますが、ワーキングプログラムがあるのはもちろん、ロールモデルが身近にいたり、育児と仕事の両立にむけて部署全体でバックアップしてもらっています。各人のライフサイクルに合わせたキャリア形成が尊重され、のびのびと働くことができると感じます。

Q.コンサルティングファームへの転職を検討されている方にアドバイスおよびメッセージをお願いします。

A. やりたいことが実現できる環境か、成長できるかなど、人それぞれ転職の動機や、企業選定の基準は異なると思います。私の場合は最終的に「人」で決めました。デロイトで10年間働くなかで、もちろん悩むこともありましたが、色んな人が手を差し伸べてくれました。モヤモヤを解決に導いてくれて、視野も広がり、新しいことに次々とチャレンジできていると感じます。一緒に、世の中に変革を起こしましょう！！



▼ご興味ある方はぜひ！

< 応募職種一覧ページ >

[Life Sciences & Health Care（製薬、医療機器、医療・異業種参入領域）](#)